報道関係資料

東京商工会議所記者クラブおよび労働省記者クラブにて発表

2000年4月26日（水）

2000年度　大学生の就職意識調査結果報告

株式会社毎日コミュニケーションズ
代表取締役社長　濱田　浩實
【本社】〒100－0003 東京都千代田区一ツ橋1－1－1

【はじめに】

当社では1979年から全国大学生の就職意識調査および人気企業調査を実施してまいりました。「人気企業ランキング」につきましては4月18日に発表させて頂きましたが、このたび2001年３月に卒業を予定する大学生の就職意識調査の結果がまとまりましたのでご報告致します。

【*調査結果 Topics*】

● *仕事内容,財務内容よりも、明るく楽しく働きたい。雰囲気重視の男子学生？*(関連項目：2-Ⅰ,2-Ⅳ)

☆『就職観』は「楽しく働きたい」がＮＯ．１で例年と変動なし。『大手志向』は2年連続減少に。
☆『行きたくない会社』は「ノルマのきつそうな会社」「暗い雰囲気の会社」が大幅に得票ポイントを増やす。
逆に「仕事内容が面白くない会社」「財務内容の悪い会社」が大幅な得票減に。

● *文系女子では大手指向がバブル崩壊以降もっとも高まる*(関連項目：2-Ⅱ,3-Ⅱ,3-Ⅲ)

☆1995年には過去最低の32.9%だった文系女子の大手指向が8年ぶりに50%を超える。
☆理系女子では「ヤリガイがあれば中堅・中小でもよい」「(選択のポイントは) やりたい仕事ができる会社」のポイントが男女・文理全カテゴリー中最も高く、就職に対する意識の高さが目立つ。

● 文理・男女全てのカテゴリーで「人のためになる仕事をしたい」が2年連続ポイントアップ(関連項目2‐Ⅰ,3‐Ⅰ)

☆『就職観』の選択項目のうち、文理・男女すべてのカテゴリーで唯一2年連続ポイントアップしたのは
「人のためになる仕事がしたい」。高齢化社会,介護ビジネスの隆盛などが背景か？

● 「改正男女雇用機会均等法」施行1年。男女間の意識差に大きな開き（関連項目：1-Ⅲ,2-Ⅲ,1-Ⅳ,2-Ⅳ）

☆『行きたくない会社』で「大学・男女差別のありそうな会社」のポイントを男女で比べてみると
文系男子8.7%：文系女子23.6%，理系男子8.2%：理系女子31.1%と大きな開きが出ている。
改正男女雇用機会均等法施行直前の昨年調査では文系男子20.2%：文系女子23.2%，理系男子22.7%：理系女子30.8%と男子の意識の高さがうかがえていた。

● 学生の4人に1人は「希望先に決まらなければ就職しなくてもよい」（関連項目2‐Ⅴ）

☆男女・文理のカテゴリーでほとんど差が無く、25%強の学生が「希望する就職先に決まらなければ就職しなくてもよい」との回答。就職しない場合の進路でポイントが高いのは、順に①進学【理系男子】58.1%
②進学【理系女子】54.8%　③フリーター【文系女子】41.7%　④就職留年【文系男子】36.3%

【お問い合わせ先】株式会社毎日コミュニケーションズ　企画推進課
TEL03(3222)-7882/FAX03(3222)-7767／E-mail.kikaku@mycom.co.jp

●「ＩＮＤＥＸ」●

項目１．調査概要

項目２．男子就職意識調査結果

Ⅰ．就職観

Ⅱ．大手志向

sub)大手志向の推移（男女）

Ⅲ．会社選択のポイント

Ⅳ．行きたくない会社

Ⅴ．就職希望度(男女)

項目３．女子就職意識調査結果

Ⅰ．就職観

Ⅱ．大手志向

Ⅲ．会社選択のポイント

Ⅳ．行きたくない会社

~質問内容~

Ⅰ）以下の選択肢のなかで、あなたの「就職観」に最も近いものを１つだけお選びください。

Ⅱ）あなたは｢大手企業指向」ですか、それとも｢中堅企業指向」ですか。以下の選択肢のなかから最も近いものをＩつだけお選びください。

Ⅲ）会社選択をする場合、どのような会社がよいと思いますか。以下の選択肢のなかから２つお選びください。

Ⅳ）行きたくない会社があるとしたら、次のどのような会社ですか。以下の選択肢のなかから２つお選びください。

Ⅴ）卒業しても就職しない若者が増えているといわれます。あなたの就職希望度はA,Bどちらに近いですか
また、Bと答えた方、就職しなかった場合の進路は？

●調査データ発表●

項目１.調査概要

１）調査対象　2001年3月卒業見込みの大学生　３６２，８４４名
内訳）文系大学生　２１２，４７５名
理系大学生　１５０，３６９名

２）調査期間　1999年12月1日 ～ 2000年2月20日

３）調査方法　当社発行の就職情報誌にアンケートを同封し、郵送にて回収。

４）有効回答数　合計　８，８０１名
内訳）文系大学生　６，３４１名
（男子　3,369名／女子　2,972名）
理系大学生　２，４６０名
（男子　1,621名／女子　839名）

５）有効回答率　２.４％

項目２. 男子就職意識調査結果

Ⅰ. 就職観

○就職観の選択では文系男子の 31.1%、理系男子の 30.9%が「楽しく働きたい」を選び、昨年同様トップとなった。その他の項目も例年とほぼ同様の順位，ポイントとなっている。
○トップの「楽しく働きたい」は今回と同内容の質問を開始した 1990 年以来、理系男子で 10 年連続,文系男子で 1995 年以来 6 年連続となっている。
○2 位の「個人の生活と仕事を両立させたい」は文理とも年々ポイントが落ち込んでおり、特に文系男子ではトップだった 1990 年の 31.4%以降、バブル崩壊の影響が色濃く残る 1993 年，94 年を除いては、「楽しく働きたい」から大きく差が広がっている。
会社に行ったら楽しく働きたいけれど、「仕事」と「個人」は切り離して会社と実生活をリンクさせたくないという学生意識のあらわれか。
○「人のためになる仕事をしたい」は文理とも 2 年連続でポイントを上げている。
福祉問題などがマスコミに取り上げられる機会が多くなった影響が考えられる。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
楽しく働きたい	31.1%	±0	30.9%	0.4
個人の生活と仕事を両立させたい	20.3%	-1.7	19.7%	-0.7
プライドの持てる仕事をしたい	16.3%	±0	15.2%	-0.1
自分の夢のために働きたい	16.0%	1.2	17.8%	-0.9
人のためになる仕事をしたい	8.1%	0.4	8.7%	0.7
社会に貢献したい	3.8%	-0.6	4.0%	±0
出世したい	2.5%	0.7	1.7%	0.2
収入さえあればよい	1.9%	0.4	2.1%	0.4

Ⅱ. 大手志向

○厳しい就職環境を反映してか男子においては「自分のやりたい仕事ができれば大手企業がよい」「ゼッタイ大手企業がよい」を合わせたポイントは文理とも 2 年連続減少した。
○「ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」と「自分のやりたい仕事ができれば「大手企業がよい」との間ある意識の微妙なニュアンス差は本調査からは窺い知ることができないが、「中堅・中小企業でもよい」というポイントの高さからは、とりあえず大手企業にこだわらずに自分なりの就職を模索する学生の様子がうかがえる。
○ＩＴ関連を中心にベンチャー企業が話題に取り上げられることが多いが、在学中に起業をめざす学生は２%台と低く、ベンチャーを志す学生も「まずは企業で力をつけてから」というスタンスが多いようだ。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい	44.2%	-0.1	47.1%	4.4
自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい	36.5%	-1.7	36.1%	-4.4
その他(公務員　Uターン志望など)	7.6%	0.8	6.1%	1.1
ゼッタイに大手企業がよい	7.0%	1.2	5.3%	-1.4
中堅・中小企業がよい	2.4%	±0	2.8%	-0.4
自分で会社を起こしたい	2.3%	0.1	2.5%	0.6

ＳＵＢ）大手志向の推移（男女）は次ページに。

SUB）大手志向の推移（男女）

（「ゼッタイに大手企業がよい」と「やりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」を合わせた割合の推移）

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
文系男子	66.1%	53.1%	47.8%	44.9%	41.8%	46.0%	50.5%	47.2%	43.5%
理系男子	65.6%	55.5%	47.4%	45.3%	41.6%	44.0%	46.0%	44.4%	41.4%

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
文系女子	64.2%	46.1%	37.5%	32.9%	33.2%	37.0%	42.8%	48.1%	54.9%
理系女子	66.3%	47.8%	39.7%	33.3%	32.6%	31.9%	29.8%	39.0%	36.0%

III．会社選択のポイント

○会社選択のポイントでは「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」が調査開始以来、一貫してトップ。
○ここ数年、終身雇用制度のあり方が取り上げられることが多いが、「一生続けられる」ことを選択ポイントに挙げた学生は 1993 年に同選択肢を設定して以来、文理とも最高のポイントとなった。「安定している会社」と合わせた得票率は文理とも例年同様 30%近くに達しており、就職に「確かさ」を求める学生の志向は根強いものがある。
○一方、「これから伸びそう」を選択ポイントに選んだ学生も文理とも昨年を上回り、「安定している」を上回った。度重なる大手企業の合併，統合などで「安定」だけによりかかれない学生の意識も見える。
○文理間では「働きがいがある」「自分の能力・専門を活かせる」の 2 項目での選択にかなりのポイント差が見られる。文系では、漠然とした「働きがい」を選択する率が高いのに対し、理系の学生は「専門・能力」といった具体的な観点から企業を絞っていく比率が高いといえる。
「自分のやりたい仕事（職種）ができる」という回答も文理ではニュアンスが違うと捉えるべきだろう。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
自分のやりたい（職種）ができる会社	45.9%	-0.8	47.3%	-2.0
働きがいのある会社	23.4%	-0.3	18.3%	-1.0
これから伸びそうな会社	20.5%	1.1	21.3%	1.7
安定している会社	19.8%	±0	20.2%	-0.5
自分の能力・専門を活かせる会社	15.7%	1.9	21.8%	1.5
社風が良い会社	9.1%	-0.4	7.5%	-0.1
一生続けられる会社	8.3%	1.1	7.1%	0.4
給料のよい会社	7.5%	0.8	7.8%	-0.4
志望職種の会社	5.9%	-1.8	4.6%	-0.3
海外で活躍できそうな会社	5.9%	0.2	5.6%	0.2
研修制度のしっかりしている会社	5.1%	±0	6.0%	-0.1
勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社	4.8%	-2.3	6.4%	-0.9
親しみのある会社	4.6%	±0	4.3%	0.4
休日、休暇の多い会社	4.3%	-0.6	4.1%	-0.8
いろいろな職種を経験できる会社	3.8%	0.8	3.8%	0.2
若手が活躍できる会社	3.5%	-0.4	3.3%	±0
有名な会社	3.5%	0.8	3.2%	0.8
転勤のない会社	3.2%	-0.5	3.5%	0.2
大学・男女差別のない会社	3.0%	-0.2	2.0%	-0.3
事業を多角化している会社	1.2%	-0.2	1.8%	0.9

Ⅳ．行きたくない会社

○Ⅰ～Ⅲの回答が例年ほとんど変動がないのに較べ、10 ポイント単位で得票に動きがあった。「どんな会社に就職したいか」はまだ漠然としていて無難な選択肢を選ぶが、「行きたくない」というネガティブな方向はある程度イメージしやすいということだろうか。

○上位 3 項目【「仕事内容が面白くない」「ノルマがきつそう」「暗い雰囲気」】は調査開始以来、若干の順位変動があるものの変わっていない。

○顕著な変化として一昨年以来ポイントを伸ばしていた項目「財務内容が悪い」が、文理とも大きくマイナスに反転した。また、「仕事内容がおもしろくない」も大幅にポイントを落とす反面、「ノルマがきつそう」「暗い雰囲気」は大きくポイントを回復しており昨年の学生との気質の違いがうかがえる

○改正男女雇用機会均等法実施直前でマスコミにも取り上げられ機会が多かった昨年に比べ、「大学・男女差別がありそう」という項目を上げる男子学生は一昨年レベルに下がった。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
仕事の内容がおもしろくない会社	35.4%	-8.1	39.2%	-7.8
ノルマのきつそうな会社	34.6%	12.1	23.9%	2.9
暗い雰囲気の会社	33.0%	7.9	37.4%	10.0
財務内容の悪い会社	18.0%	-15.1	18.8%	-6.7
転勤の多い会社	17.9%	2.5	18.4%	0.4
体質が古い会社	17.7%	-0.9	20.1%	1.7
休日・休暇がとれない（少ない）会社	15.8%	0.6	15.6%	2.3
大学・男女差別のありそうな会社	8.7%	-11.5	8.2%	-14.5
給料の安い会社	8.0%	-0.8	9.0%	±0
歯車になりそうな会社	6.8%	-0.3	7.6%	2.1
残業が多い会社	3.0%	-1.8	1.9%	1.4

Ⅴ．就職希望度(男女)

○今回から調査項目に追加したが文理・男女すべてのカテゴリーで大きな差はあらわれなかった。

○「就職しない場合の進路」については理系は過半数が進学を希望し、文系男子は翌年度の就職チャンスに賭けての就職留年という答えが最も多かった。
また、フリーターと答えた学生の各カテゴリー全体に対する比率は、文系女子の 11.8%を最高に文系男子 6.8%，理系女子 6.1%，理系男子 5%だった。

設問		文系男子	理系男子	男子計	文系女子	理系女子	女子計
A	何がなんでも就職したい	74.4%	72.8%	73.9%	71.8%	74.1%	72.3%
B	希望する就職先に決まらなければ就職しなくてもよい	25.6%	27.2%	26.1%	28.2%	25.9%	27.7%

設問BにYESの場合、進路は	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
フリーター	26.6%	18.5%	41.7%	23.5%
進学 留学,大学院)	32.0%	58.1%	33.6%	54.8%
就職留年	36.3%	18.7%	23.4%	18.9%
起業	5.0%	4.8%	1.3%	2.8%

項目３．女子就職意識調査結果

Ｉ．就職観【女子】

○男子同様「楽しく働きたい」が選択のトップとなった。同項目のトップは同内容の質問を開始した 1990 年以来、理系女子で 11 年連続,文系女子で 1991 年以来 10 年連続となっている。
○「人のためになる仕事をしたい」も男子同様文理とも 2 年連続でポイントを上げている。特に理系女子では調査開始以来はじめて全カテゴリーのなかで 10%を超えた。

内容	文系女子		理系女子	
		昨年比		昨年比
楽しく働きたい	35.8%	-1.5	34.9%	-0.6
個人の生活と仕事を両立させたい	22.2%	-1.0	17.7%	-3.3
自分の夢のために働きたい	16.7%	1.5	15.8%	-0.8
プライドの持てる仕事をしたい	13.5%	-0.5	14.0%	-1.6
人のためになる仕事をしたい	7.5%	1.4	12.7%	4.6
社会に貢献したい	2.3%	-0.7	3.4%	1.1
収入さえあればよい	1.5%	0.4	1.1%	0.5
出世したい	0.5%	0.4	0.5%	0.2

II．大手志向【女子】

○文系女子の大手志向が目立つ。企業の採用意欲がバブル崩壊後初めて持ちなおした 1997 年を境に文系女子のみが毎年大手志向を強めており、今回 8 年ぶりに 50%を超えた。(項目 2- II -SUB)参照。採用の現場では「男子より女子の方に優秀な人材が多い」との見方をする担当者も多く、また改正男女雇用機会均等法などの追い風で優秀な女子学生には大手企業の門戸が広くなっていることも一つの要因か。しかし、女子学生全般の就職環境は厳しいものがあり、「どうせ受けるなら大手から」といった弱気，不安の裏返しと見ることもできる。
○理系女子は「ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」のポイントが全カテゴリー中最も高く、また「大手志向」のポイントも 1995 年以降，ほぼ安定している。会社本位より仕事本位の就職活動を意識している学生が多いと見られる。

内容	文系女子		理系女子	
		昨年比		昨年比
ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい	34.4%	-8.4	53.5%	2.7
自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい	50.0%	8.6	31.9%	-1.7
その他(公務員　Uターン志望など)	7.3%	0.5	6.8%	-0.5
ゼッタイに大手企業がよい	4.9%	-1.8	4.1%	-1.3
中堅・中小企業がよい	2.8%	0.8	3.2%	0.7
自分で会社を起こしたい	0.6%	0.2	0.5%	0.1

項目２- II -ＳＵＢ）大手志向の推移（男女）

（「ゼッタイに大手企業がよい」と「やりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」を合わせた割合の推移）

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
文系男子	66.1%	53.1%	47.8%	44.9%	41.8%	46.0%	50.5%	47.2%	43.5%
理系男子	65.6%	55.5%	47.4%	45.3%	41.6%	44.0%	46.0%	44.4%	41.4%

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
文系女子	64.2%	46.1%	37.5%	32.9%	33.2%	37.0%	42.8%	48.1%	54.9%
理系女子	66.3%	47.8%	39.7%	33.3%	32.6%	31.9%	29.8%	39.0%	36.0%

III. 会社選択のポイント【女子】

○文系女子でポイントが 1 番伸びた項目は「これから伸びそうな会社」で 7.5 ポイントの増加。これは 2 年前調査の約 2 倍となっている。(19998 年調査の同項目ポイント：8.7%)
大手志向が強い反面、ベンチャー系にも関心を持ち始めている文系女子学生の元気さのあらわれか。
○「自分のやりたい仕事（職種）ができる」を選択した比率は、理系女子が全カテゴリー中もっとも高く、前段の「ヤリガイ志向」と併せて実質的な仕事本位の就職活動が浮かび上がってくる。

内容	文系女子		理系女子	
		昨年比		昨年比
自分のやりたい仕事（職種）ができる会社	49.4%	1.2	54.4%	2.0
働きがいのある会社	20.5%	0.9	18.6%	-0.1
これから伸びそうな会社	17.1%	7.5	12.1%	1.3
社風が良い会社	15.4%	-4.3	11.8%	-0.6
自分の能力・専門を活かせる会社	12.8%	-0.1	20.9%	-2.2
安定している会社	12.5%	-4.7	13.8%	-2.7
勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社	11.5%	1.0	10.5%	1.6
大学・男女差別のない会社	10.2%	-0.1	10.5%	-2.1
海外で活躍できそうな会社	7.9%	-1.2	5.1%	-1.2
給料のよい会社	7.0%	1.2	4.3%	-0.6
志望職種の会社	6.2%	-0.8	5.0%	0.2
親しみのある会社	6.1%	1.2	6.1%	0.7
一生続けられる会社	6.0%	-0.4	6.8%	-0.2
休日、休暇の多い会社	4.1%	0.3	3.2%	-0.4
研修制度のしっかりしている会社	3.4%	-1.3	6.4%	2.3
転勤のない会社	2.6%	-0.3	2.9%	-0.3
いろいろな職種を経験できる会社	2.4%	0.1	3.5%	2.0
若手が活躍できる会社	2.0%	-0.1	1.8%	0.3
有名な会社	1.7%	-0.7	1.1%	-0.4
事業を多角化している会社	1.0%	0.4	0.8%	0.1

IV.　行きたくない会社

○昨年から文理とも大きくポイントを伸ばしたのは「ノルマのきつそうな会社」。（文系女子で 2 位→トップ,理系女子で 4 位→2 位）総合職として期待を寄せられる反面、できればきつい仕事は避けたいというホンネが見える。
○男子と比べて顕著なのが「大学・男女差別のありそうな会社」。文系で 4 人に 1 人弱,理系で 3 人に 1 人弱がこの項目を挙げている。

内容	文系女子		理系女子	
		昨年比		昨年比
仕事の内容がおもしろくない会社	29.5%	-3.9	34.3%	-2.4
ノルマのきつそうな会社	41.4%	5.7	32.1%	5.8
暗い雰囲気の会社	38.3%	-0.4	37.1%	-0.5
財務内容の悪い会社	13.9%	-1.8	15.9%	1.4
転勤の多い会社	10.3%	2.1	11.8%	-1.1
体質が古い会社	15.6%	-2.1	16.0%	-1.0
休日・休暇がとれない（少ない）会社	14.7%	1.5	11.8%	-0.2
大学・男女差別のありそうな会社	23.6%	0.4	31.1%	-0.3
給料の安い会社	5.7%	±0	4.7%	-0.7
歯車になりそうな会社	3.3%	-1.8	3.0%	-1.5
残業が多い会社	3.4%	-0.1	2.3%	0.7